

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 塔野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日(木)に、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」、文部科学省が指定した日(4月18日から4月30日の間)に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

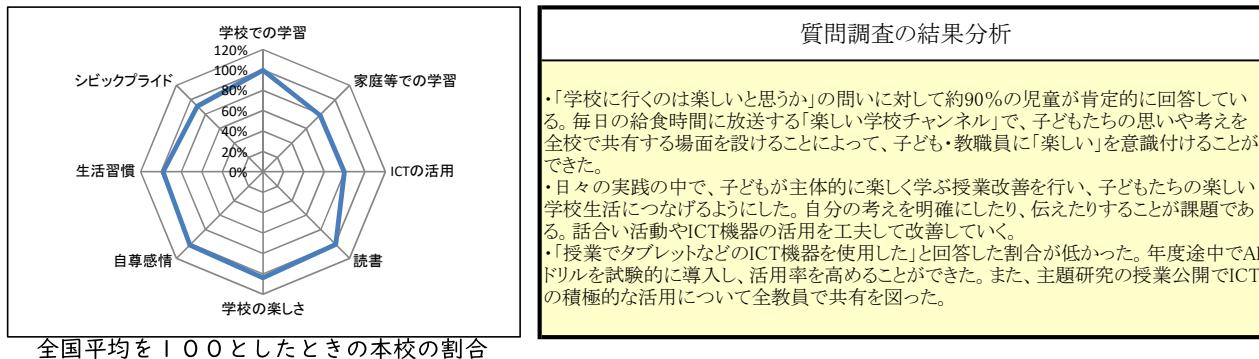
- (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・知識及び技能の観点では「我が国の言語文化に関する事項」、思考力・判断力・表現力等の観点では「話すこと・聞くこと」、「読むこと」に課題がある。 ・問題形式では「記述式」に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうか	
	努力が必要な問題	・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうか	
算数	全体的な傾向や特徴など	・学習指導要領の領域では「图形」「測定」に課題がある。 ・評価の観点では「知識・技能」に課題がある。 ・問題形式では「短答式」に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうか	
	努力が必要な問題	・平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうか	
理科	全体的な傾向や特徴など	・学習指導要領の領域では「生命」「地球」を柱とする領域に課題がある。 ・評価の観点では「思考・判断・表現」に課題がある。 ・問題形式では「記述式」に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・問題に対するまとめを書き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうか	
	努力が必要な問題	・顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうか	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・確かな学力を身に付けるために、子どもが主体的に楽しく学ぶ授業づくりについて、引き続き全校体制で研究していく。
- ・復習や考えの共有等、授業の様々な場面でICT機器を積極的に使用する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・授業時間で確保が難しい自主学習や読書、基礎基本の定着の図るための取組を推進する。
- ・タブレットの使用にあたってルールの徹底を図る。また、次年度より家庭学習においてもAIドリル等の学習時間を確保するようにする。